

---

**解 説**

---

**日本温泉科学会の欧文名称の経緯とその意味について**

昭和女子大学  
大 山 正 雄

**On the name in European languages of Nippon  
Onsenkagaku Kai (Balneological Society of Japan)**

Masao OYAMA

**1. はじめに**

日本温泉科学会の英文名称は Balneological Society of Japan です。Balneology は温泉学という意味ですが、今日、関係者を含めて日本人はもとより欧米人にもすぐ理解してもらえず、説明を要することがあります。日本温泉科学会の英文名称の変更については 6 年前に検討されましたが、結論が出ないままになっています。

この度、日本温泉科学会が広く世界との交流を行うには、現在の英文名称の Balneology を専門外の人でも理解できるように変更する必要があるとの提案が広報・交流委員会から 2006 年 6 月の理事会、評議員会に提出され、了承されました。新たな英文名称案の策定作業は今年度設立された将来委員会が担当し、全会員へのアンケートを行うことになりました。そこで、日本温泉科学会の欧文名称の経緯とその意味について考えてみました。

**2. 日本温泉科学会の欧文名の経緯**

日本温泉科学会は 1940 (昭和 15) 年 11 月 9 日に創立されました。同年 11 月 27 日の第 7 回幹事会は学会名称を「日本温泉科学学会」としました。翌 1941 (昭和 16) 年 3 月の理事会は、学会誌名を『温泉科学』、学会および学会誌の欧文名称を次のように決めました (温泉科学第 1 巻第 2 号の記事の項, 1941)。

学 会 名 : Balneological Society of Japan

Japanese Gesellschaft für Balneologie

学会誌名 : Berichte der Japanische Gesellschaft für Balneologie

学会誌『温泉科学』第 1 巻第 1 号は 1941 (昭和 16) 年 8 月に発行され、欧文名称は、

「日本温泉科学学会」: Japanese Gesellschaft für Balneologie

「温泉科学」: Berichte der Japanische Gesellschaft für Balneologie

とドイツ語表記を採用しました。

学会は第二次世界大戦の戦況の悪化によって活動の停止を余儀なくされ、学会誌が物資窮乏にともなう紙使用制限により 1943 (昭和 18) 年 9 月 30 日発行の第 3 巻第 2・3 号をもって中断することになりました。

戦争が 1945 (昭和 45) 年 8 月 15 日に終わり、その翌年から学会は活動を再開しました。1948 (昭和 23) 年 5 月に第一回学術大会が開催、翌 1949 (昭和 24) 年 7 月に『温泉科学』第 3 巻第 4 号が発行されました。この号から学会と学会誌の欧文名は、

学 会 名 : The Balneological Society of Japan

学会誌名 : Journal of the Balneological Society of Japan

と英文名称となり今日に至っています。

なお、学会名は 1961 (昭和 36) 年 8 月に「学」の一字を取って「日本温泉科学会」と改めました。

### 3. 温泉の欧文名称について

ドイツ語とフランス語の balneologie, 英語の balneology は温 (鉱) 泉学, あるいは浴療学 (法) と訳されています。この balneo は浴場を意味するラテン語 balnea に由来し、入浴や浴槽の意をもつドイツ語 bad, 英語 bath, フランス語 bain につながります。語尾の、-logie や -logy は学あるいは論理の意です。

温泉あるいは温泉水は日本語から調べると、ドイツ語が warme (heiBe) Quelle, heiBes Quellbad, 英語が thermal spring あるいは hot spring, フランス語が source thermale, eau thermale, イタリア語が terme, acqua thermale です。また、鉱泉あるいは鉱泉水は、ドイツ語が Mineralquelle, Mineralwasser, 英語が mineral spring, mineral water, フランス語が eau minerale, source minerale, イタリア語が acqua minerale です。なお、フランス語に温泉と鉱泉を含めた水として eau thermominerale があります。

温 (鉱) 泉療法は、英語が balneotherapy, ドイツ語とフランス語が balneotherapie で、日本語からだと、ドイツ語が Badekur, 英語が balneotherapy と hot spring cure (therapy), フランス語が cure thermale (hydrothermale) で、イタリア語が cura termale で、cure (Kur) が主に用いられています。

フランスでは温泉の利用、開発、水文、水質、起源、地質など温泉に関わる全てを含む用語として Thermalisme が用いられています。

## 4. 学会と研究所等の欧文名称 (設立年)

### 4.1 学会・協会等

国際温泉気候連合 (1947)

Federationo Mondiale du Thermalisme et du Climatisme (通称 FMTEC) (フランス語)

Weltverband fur Balneology und Klomatologie (ドイツ語)

World Federation of Hydrotherapy and Climatotherapy (英語)

国際温泉科学会 (1964)

Societe Internationale des Techniques Hydrothermales (SITH)

国際水治療法学会 (1935)

International Society of Medical Hydrology (ISMH)

日本温泉気候物理医学会 (1935)

The Japanese Society of Balneology, Climatology and Physical Medicine

日本温泉科学会 (1941)

The Balneological Society of Japan

温泉工学会 (1963)

The Society of Engineers for Mineral Springs, Japan

日本地熱学会 (1974)

Geothermal Research Society of Japan

日本温泉地域学会 (2003)

Regional Science Association of Spa, Japan

日本水文科学会 (1987)

Japanese Association of Hydrological Sciences

日本水文・水資源科学会 (1988)

Japanese Society of Hydrology and Water Resources

NPO 法人・健康と温泉フォーラム (1986)

The Forum on Thermalism in Japan

(社)日本温泉協会 (1930)

Japan Spa Association

(社)韓国温泉協会 (1988)

Korea Hot Spring Association

中華民国温泉観光協会 (2004)

The Hot Spring Tourism Association Taiwan

#### 4.2 研究所

九州大学温泉治療学研究所 (1931)

Institute of Balneotherapeutics, Kyushu University

(財)中央温泉研究所 (1948)

Hot Spring Research Center

岡山大学温泉研究所 (1951)

Institute for Thermal Springs Research, Okayama University

神奈川県温泉研究所 (1961)

Hot Springs Research Institute of Kanagawa Prefecture

京都大学地球熱学研究施設 (1997)

Institute for Geothermal Sciences, Kyoto University

#### 4.3 法律

日本 : 温泉法 (1948)

Hot Spring Law

フランス : 鉱泉の保存及管理に関する法律 (1856)

Loi sur la Conservation et l'Aménagement des Sources d'Eaux minerales

ベルギー : 鉱泉及び温泉保護法 (1924)

Loi concernant la Protection des Eaux minerales et thermales

## 5. まとめ

温泉に関する学会や研究機関などの欧文表記は第二次世界大戦を挟んで、ドイツ語から英語に変わっており、政治と学問の世界の大きな流れを反映しています。

管見ではあるが、温泉の欧文名称（括弧内はドイツ語）の表記は一般的に、thermal (warmer) か hot, hydro, spring (Quelle) が使われています。balneology は浴療学（法）と訳されているように入浴に基づく医学、そしてドイツ語関係に多く見られ、狭い範囲の用語であることを示唆しています。このことが一般の欧米人にも理解されないことにつながっていると思えます。

日本温泉科学会は温泉を地球科学、医学、工学、水文学、地質学、および歴史や文化など幅広い分野を対象とする総合科学の調査研究者の集団です。したがって、用語は普遍性をもち、容易に理解されるものが望ましいと考えます。

温泉の英語直訳は、hot spring あるいは thermal spring に相当します。最近の日本の温泉は技術の進歩と需要の急増によって深層熱水を動力装置で湧出させたものが多くなり、温泉の英文名称に spring の使用は現状に合わないとの議論もあります。しかし、学問的には、地下にある高温の水は熱水 (hydrothermal solution)、それが陸上に出たものを温泉としています。それに温泉には古来から誕生の湯、若返りの水、広い意味で医療（再生）の水との考えが世界的に共通しています。したがって、動力によって陸上に湧出させた水でも spring を用いても問題はないし、むしろ象徴的の用語と考えます。次ぎに温泉の温ですが、thermal はラテン語の温泉 thermae に由来し、イタリアやフランスなどのラテン語圏や英語圏の共通語です。温を hot あるいは thermal を用いるかは議論のあるところかなと思ったりしています。

いずれにしても、温泉科学会の温泉の英語名称は hot spring あるいは thermal spring のいずれかが望ましいと考えます。

### 参考文献

- 家 正政他 (2000) : 地球と宇宙の小辞典, 岩波書店  
 伊吹武彦他 (1991) : 仏和大辞典, 白水社  
 池田 廉編 (1983) : 伊和中辞典, 小学館  
 岩崎民兵監修 (1973) : 現代英和辞典, 研究社  
 国松孝二編 (1998) : 独和大辞典, 小学館  
 国松孝二編 (1998) : コンサイス和独辞典, 三省堂  
 西川一郎編 (1999) : 和伊辞典, 小学館  
 鈴木信太郎他 (1976) : スタンダード沸和辞典, 大修館書店  
 鈴木信太郎他 (1991) : スタンダード和沸辞典, 大修館書店  
 高橋正武編 (1979) : 西和辞典, 白水社  
 武田軍治 (1935) : 外国温泉法規, 温泉大鑑, 日本温泉協会  
 竹林滋編 (2002) : 新英和大辞典第一版, 研究社  
 渡邊敏郎編 (2003) : 新和英大辞典第五版, 研究社  
 G. Castany et J. Margat (1977) : Dictionnaire francais d'hydrogeologie, Bureau de Recherches Geologiques et Minieres  
 E. Duhot et M. Fontan (1972) : Thermalisme, Que-sai-je ?, Presses Universitaires de France.  
 P. Ribeyre et al. (1974) : Le Thermalisme en France, Federation Thermale et Climatique Francese.